ニューヨーク、バンクーバーでの在外研究

法学部准教授　**桧　垣　伸　次**

筆者は、2016年８月から１年間ニューヨーク大学（以下、NYU とする）に、2017年８月から半年間ブリティッシュ・コロンビア大学（以下、UBC とする）に、客員研究員として滞在した。

ニューヨークでの研究生活

NYU は、1831年に設立された、ニューヨーク市にある総合大学である。同大学は、いわゆる都市型大学で、一般的にイメージされるようなキャンパスをもたず、ワシントン・スクウェア・パーク周辺に校舎が点在している。ロースクールはワシントン・スクウェア・パークの南西に位置する。この周辺は、グリニッジ・ヴィレッジといい、若者に人気のエリアである。近くにはブルーノートなど、多くのジャズバーなどもある。NYU のロースクールは、著名な教授を数多く擁しており、一流ローファームに多くの人材を輩出している。2018年の全米ロースクールランキングでは６位となっている。筆者は、その中の、アジア法研究所（US-Asia Law Institute、以下、USALI とする）という研究機関に所属した。

ワシントン・スクウェア・パーク

USALI のオフィスでは、客員研究員には、パーテーションで区切られた机が与えられ、パソコンも一人一台与えられた。USALI にはアジア各国から来た10人ほどの客員研究員がおり、お互いの研究分野について話したり、時には大学近くのパブに飲みに行ったり、鍋パーティーをしたりして、交流を深めることができた。

客員研究員は、希望する講義を聴講することができた。筆者は、平等権理論、特に同性婚問題の専門家である Kenji Yoshino 教授、表現の自由について多数の業績がある David Richards 教授、司法政治論などに詳しい Barry Friedman 教授の講義を聴講した。アメリカのロースクールの講義は、いわゆるソクラテス・メソッドを採用しており、学生と教員がやりとりをしながら進行していく。当然学生には多くの予習が必要であり、英語を母語としない筆者は、毎日数10頁、時には100頁以上にもなる資料を読むのに大変苦労した。講義の聴講以外では、USALI が毎週開催するランチセミナー（昼ごはんを食べながらのセミナー）や、友人に誘われた刑事法のセミナーなどにも参加した。また、ニューヨークという土地柄か、多くの著名人の講演が行われており、筆者はアメリカ連邦最高裁の Sotomayor 裁判官の講演などにも参加した。

研究以外では、筆者はサッカー観戦が趣味のため、しばしばヤンキースタジアムに足を運んだ。ニューヨークには、ニューヨーク・シティ FC というチームと、ニューヨーク・レッドブルズという二つのチームがあり、筆者は前者を応援していた。なお両チームの対戦はハドソン川ダービー（Hudson River Derby）と呼ばれる。アメリカでは野球やアメフト、バスケ

などが人気であり、残念ながらサッカーの人気はいま一つのようで、ヤンキースの試合のときは満員になるヤンキースタジアムも、ニューヨーク・シティFCの試合のときは空席が目立った。

ニューヨークではハンバーガーやフライドチキン、フードトラックのハラルフードなどをよく食べた。有名なステーキハウスもいくつかあり、友人たちと何度か訪れた。その中の一つに、日本の現首相も来店したことがあるようだ。筆者のお気に入りは、グランドセントラル駅の地下にあるオイスターバーで、月に1度は足を運んだ。ニューヨークでは、日本料理屋も非常に多く、もつ鍋の店まであった。また、ラーメンも人気で、多くのラーメン屋があり、福岡でおなじみの店もいくつかあった。

また、筆者はアメリカ憲法を専門とするため、ボストン、フィラデルフィアなどの憲法制定にゆかりのある場所を訪問したり、ワシントンD.C.にある連邦最高裁で口頭弁論を聞くなどした。特にフィラデルフィアは、革命博物館や憲法センターなど、興味深い場所が多い。ボストンでも、有名なボストン茶会事件の現場など、様々な場所を訪れ、アメリカでは憲法が市民に身近なものになっていることを実感した。ところでボストンはロブスターが有名で、ハーバード大学近くの店で食べたロブスターは絶品だった。フィラデルフィア名物のチーズステーキはイマイチだった。

ニューヨーク在住中でとくに印象深かったのは、アメリカの大統領選挙の日である。筆者が住んでいたアパートも投票会場となり、朝から多くの人が訪れていた。なお、案内の言語は英語、スペイン語、中国語だった。ロースクールでは、教室をいくつか開放し、パブリックビューイングのようなものを開催していた。多くの学生がビールやワインを持ち込み、ピザなどを食べながら開票の状況をテレビで見ており、まるでお祭りのような状況だった。時差の関係で、日本のように全国で一斉に開票というわけにはいかないため、開票にも時間がかかる。開票が進むにつれ、泣き出す学生が出たり、大学近くの公園では集会が開かれたりしていた。選挙の結果が出た翌日の講義では、教員が選挙についてのコメントを出したり、学生と議論したりする光景もあった。この日の新聞は今でも筆者の手元にある。

バンクーバーでの研究生活

2017年8月後半からは、バンクーバーにあるUBCの客員研究員となった。バンクーバーはカナダ連邦ブリティッシュ・コロンビア州南西部に位置し、2010年に冬季オリンピックが開催されたことでも知られる都市である。夏は晴れる日が多いのに対し、秋〜冬は雨が多く、晴れる日は少ない。毎日のような雨

著名なステーキハウスにて

大統領選挙投票日のアパートの案内

で、精神的に落ち込んでくる人もいると聞く。ただし冬も比較的暖かく、バンクーバー市内で雪が降ることはあまりない。1908年に設立された UBC は、カナダの現首相トルドーなど多くの著名人を輩出した大学である。ニューヨーク大学とは異なり、広大なキャンパスを有しており、キャンパス内には博物館や植物園、スタジアムなどがある。また、新渡戸稲造を顕彰して作られた日本庭園（新渡戸記念庭園）もある。学内にはパブもあり、特に週末の夜は多くの学生で賑わう。筆者は、UBC ロースクールのアジア法研究センター（Centre for Asian Legal Studies、以下、CALS とする）に所属した。

UBC では、原則として 1 学期に 2 コマまで聴講が可能であり、筆者はサイバースペース法のセミナーを聴講した。セミナーがないときは、客員研究員に与えられた共同研究室や図書館で研究をしていた。研究が行き詰ったときは日本庭園で散歩したり、博物館を見学したりするなど、広大なキャンパスならではの過ごし方ができた。特に人類学博物館は、トーテムポールや地元の先住民族によるアートを中心に、多くの興味深い展示品があった。

10月後半には、CALS 主催のセミナーで報告する機会があり、筆者の研究テーマである、ヘイト・スピーチ規制を巡る憲法的問題について報告をした。筆者の英語は日本訛りが強く、あまり聞き取りやすくはなかったであろうが、多くの教員や学生が参加してくれて、様々な質問を受けた。CALS は他にもセミナーを開催しており、多くの研究者、実務家の報告を聞く機会を得た。

ブリティッシュ・コロンビア州は自然が豊かで、多くの観光客が訪れる。筆者もオリンピックの会場になったウィスラーでスキーをしたり、バンクーバー島でトレッキングを楽しんだりした。また、バンクーバーにはクラフトビールの醸造所が多くあり、週末になるとよく醸造所を訪れて、たくさんのビールを飲んだ。バンクーバーでは魚介類が人気で、サーモンや牡蠣、カニなどをよく食べた。また、寿司が非常に人気らしく、市内では多くの寿司屋を見かけた。ラーメンも非常に人気で、筆者が住んでいたアパートの近くには、福岡にある某ラーメン屋の支店があった。

このようにニューヨーク、バンクーバーで過ごした 1 年半はあっという間に終わってしまった。最先端の研究に触れ、多くのことを学ぶことができた 1 年半だった。

最後になりましたが、在外研究の機会を与えてくださった福岡大学および法学部教授会、国内外でお世話になった方々に心よりお礼申し上げます。

新渡戸記念庭園

グランビル・アイランド・ブリューイング